

## 【研究ノート】

# オンデマンド型共通教育授業「セクシュアリティ入門」の評価 －YouTube アナリティクスの指標と授業アンケートをもとに－

## Evaluation of an On-Demand General Education Course “Introduction to Sexuality”: Based on YouTube Analytics and Student Course Evaluations

中尾 賀要子<sup>1)</sup>

### 要 旨

COVID-19によりオンデマンド型遠隔授業として始まった共通教育科目「セクシュアリティ入門」は、2022年で開講3年目を迎えた。本稿は、この科目の新規開講に至るまでの経緯と開発のプロセスをふりかえり、授業実践を評価し、今後の授業改善に向けた基礎資料とすることを目的とした。YouTube アナリティクスの視聴維持率からは受講の実態を分析し、また授業アンケートの自由記述からは受講の主な感想と意見を抽出した。履修生は関心の高い講義動画を繰り返し視聴し、リアクションペーパーの共有を通して自らの考えを言語化し、意見の多様性から学びを深めるなど、オンデマンド型の利点を生かして能動的な授業参加を果たしていた。今後は、授業内容と構成の刷新ならびに途中で不参加となる学生への対策などが課題として挙げられる。

キーワード：セクシュアリティ、性、オンデマンド、オンライン、遠隔授業

### I. 「セクシュアリティ入門」の新規開講に至るまでの経緯

「性の多様性」ということばを頻繁に耳にするようになった。2015年9月に国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）にある理念－No one left behind（誰一人取り残さない）－は、性の多様性を包摂する共生社会の実現を推進している。とりわけ、2030年を年限とする17の国際目標のうち、女性と女の子に対する差別や暴力の根絶を訴える「ジェンダー平等を実現しよう」と掲げられた目標5は、LGBTの人権と平等の前提であり（虹色ダイバーシティ, 2021）、性にまつわるさまざまな議論や活動の活性化を後押ししている。

筆者は、2010年から武庫川女子大学（以下、本学とする）で教壇に立っている。着任以来、学部生の卒業論文指導を通して、直接学生の今を知る機会に恵まれてきた。従前は、ゼミ生12名前後のうち1～2名程度が、性的マイノリティに関連したテーマを選んで卒論研究に挑んでいた。他方、世の中の多様性を尊重する動きに連動するように、性に関することをもっと知りたい、セクシュアリティの授業を取りたいという声が増えている印象を受けていた。そして、2018年春、LGBTをテーマにしたい、性的マイノリティについて調べたいと書かれたゼミ志望理由書が二桁を超えた。緊張した

<sup>1)</sup> 武庫川女子大学 教育研究所

面持ちを連想させる志望動機の文面からは、その背景まで読み取るのは難しかったが、ゼミが始まって集まった彼らは、それぞれに真摯な探求心を抱いていた。

筆者の専門は老年ソーシャルワーク、研究対象はマイノリティ高齢者である。性については門外漢というスタンスは変えようがないため、ゼミ生が抱いた疑問には筆者も含めて全員で調べ、有益と思われる情報があれば共有しようと提案した。とはいえ、指導教員として教え合いに甘んじてばかりもいられない。個人的に広く性に関連する文献をあたるように努め、学術論文、図書・古書、新聞や雑誌だけでなく、セクシュアリティに関する知見を広く得ようと国内外の芸術や文化にも触手を伸ばした。

性はあらゆる領域を横断するテーマである。欧米の大学で Introduction to Sexuality Studies と題された科目のシラバスを閲覧すると、社会科学だけでなく、英文学やカルチュラル・スタディーズなど、人文学領域の講師が担当していることも少なくない。恐らく、どの専門領域からアプローチしても、性に関するテーマに辿り着き、授業として成り立つことを示唆している。では、ソーシャルワークを専門領域とする筆者は、性の何について、どうアプローチできるだろうか。それも、本学の学生、つまり女子だけの受講に限られている大学講義においてである。

ゼミ生が就活で多忙を極める頃、筆者は本学共通教育部のジェンダー科目群において、セクシュアリティに関する科目の新規開講を検討していた。欧米諸国には性的マイノリティが迫害された歴史があり、また日本においても性的マイノリティに対する排他的な態度や否定的感情がもたらした事件が間欠的に発生している。折しも、新潮社が月刊誌「新潮 45」の性的マイノリティに対する差別表現を巡り、休刊を発表したところであった（新潮社, 2018）。性の問題は人権の問題であり、今日に至るまでの性にまつわる社会通念や慣習の変遷、そして性的マイノリティを取り巻く現代の実相に触れておく必要性を感じた。

このように足掛け 2 年で授業内容を計画したが、COVID-19 感染症の拡大に伴い、「セクシュアリティ入門（以下、本科目）」は急遽オンデマンド型遠隔授業（以下、オンデマンド型）として提供することになった。開講初年度はすべて手探りだったが、次第に授業方法も定着し、2022 年で開講 3 年目に入っている。そこで、本稿では、本科目の新規開講に至るまでの経緯と開発のプロセスをふりかえり、2022 年度前期履修生の受講に関する指標を用いて授業実践を評価し、今後の授業改善に向けた基礎資料とすることを目的とする。同時に、今後の授業改善における留意点、特に女子や女性を対象とした性教育のテーマと効果性についても検討しておきたい。

## II. 授業開発のプロセス

表 1 に本科目の定員、目的、到達目標を示す。授業を計画するにあたり、本科目の履修を希望する学生像として、前述のゼミ生らを想定した。そうすると、セクシュアリティに関する用語や概念、それらの言葉が生まれたきっかけとなる出来事や人物など、授業で取り上げるべきテーマが徐々に見えてきた。また、性における「個人的なことは、政治的なこと（The personal is political.）」という、ラディカル・フェミニズムの伴概念を彷彿させる側面を考えるならば、性をマジョリティとマイノリティ、個人と社会といった切り口で考える構成も必要であろう。そして、セクシュアリティが人間の普遍的なテーマであることを意識するには、歴史を辿ることも不可欠である。このようにゼミ生らの知的探求心を、具体的な授業内容に落とし込んでいく作業を続け、思いついたことやつぶやきをメモとして書き出していった。ある程度メモが溜まったところで仕分け作業を試み、テーマ構成できるも

のに整理した。授業内容としての優先順位を考えると同時に、本科目の目的とそれを実現するための具体的な到達目標を言語化していった。課題は学生が自分の意見や考えを表現しかつ講義を補う機会として捉え、記述形式を検討した。

表 1. セクシュアリティ入門 I の定員、科目目的、到達目標

科目名	セクシュアリティ入門 I <sup>1)</sup>
定員	2020～2021 年度：3 クラス開講、定員各 50 名 2022 年度：3 クラス開講、定員各 100 名
科目目的	この科目の目的は、セクシュアリティという概念への着目を通して、性の多様性に関する知識と意識を高め、自分も含めた一人ひとりの違いを尊重できる感覚を培うことである。
到達目標	この科目の受講終了時には、 ①セクシュアリティに関わる基本的な用語を説明できる ②セクシュアリティにまつわる歴史的な出来事を具体的に説明できる ③セクシュアル・マイノリティとマジョリティの両視点に立つことができる ④セクシュアリティと個人のライフイベントの関連について考察できる ⑤セクシュアリティに関する社会の動向について自分の考えを述べることができる

1) 2020～2021 年度の科目名称は「セクシュアリティ入門」、2022 年度から「セクシュアリティ入門 I」へと変更している。

表 2 には、授業概要として、授業内容、授業計画、授業方法、準備学習、評価方法、課題を順に示す。一重下線は、対面授業（以下、対面型）からオンデマンド型への移行に伴い変更した点である。以下に、各項目について詳記する。

#### (1) 授業内容

対面型では、ドキュメンタリー鑑賞やゲストスピーカーの招聘、グループ・ディスカッションやグループワーク、そして最終試験に代わる授業内レポート（ブックレビュー）の作成を計画していたが、すべてオンデマンド型での実施は困難と判断した。代わりに、個々の履修生で完結でき、かつ評価の公平性も担保できる課題として、2 度のポジションペーパーの提出と毎週配信する授業に対するリアクションペーパーの提出に切り替えることとした。

#### (2) 授業計画

各回の授業内容を表 3 に示す。本科目は 2 単位相当であり、本学では一回 90 分の授業を 15 週に渡って実施する。対面型において計画していた講義内容と提供順序はオンデマンド型でも可能と判断し、変更は加えなかった。なお、オンデマンド型の授業計画では、提出物へのフィードバックとなる「リアクションペーパーの共有」を計 4 週設けた。2022 年度前期は、リアクションペーパーの共有回を除いて、計 75 本の講義動画（計 14 時間 45 分 44 秒）を YouTube で配信した。

### (3) 授業方法

共通教育科目は、所属や学年に関わらず、興味や関心に応じて受講が可能である。本科目は 2022 年度前期には 2 クラス開講され、全学から合計 198 名（100 名と 98 名）が履修登録した。各クラスには専用の Google クラスルームの外に、Google サイトで作成した HP をそれぞれ用意した。メインページにはシラバスに記載した情報の詳細（科目目的、科目目標、課題の説明、毎週の授業予定や課題リーディングの URL など）、サブページには 5～10 本の講義動画と関連資料となる Web サイトや他の動画への URL を授業全体として構成し、毎週の授業日に公開した。

講義動画は 1 本あたり 15 分を目安に作成するよう心掛けたが、さらに長尺も含まれた。クラウド画面録画ツール Loom（2022）を活用した動画や、Microsoft365 パワーポイントのスライドショーで録画し MPEG-4 ビデオファイルに変換した動画を YouTube にアップした。YouTube 上では授業に関連する動画は一般に非公開とし、本学の mwu.jp アカウント所有者であれば視聴可能な設定とした。授業日には Google クラスルームのストリームに、その週のサブページ（図 1）への URL と授業ノートとして虫食い加工を施したスライドの PDF をアップした（図 2）。

### (4) 準備学習

セクシュアリティに関するテキストも検討したが、性に関する情報は日進月歩で刷新と蓄積が進んでいること、また学生の経済的負担を回避するために、教科書の採用は見送った。代わりに、本学の図書館データベースや学術機関リポジトリで無料入手できる学術論文を毎週の課題リーディングと参考文献とし、HP に DOI を掲載した。事前事後学習用の資料として、毎週配信するサブページには国内外のメディアや議会の議事録など、幅広く紹介するよう努めた。

### (5) 評価方法

提出物は、Google クラスルームの授業にトピックを作成し、課題として Google ドキュメントで作成した提出用テンプレートを一人ひとりに割り当てた。学期序盤に「女であることについて思うこと」、学期終盤に「セクシュアリティについて思うこと」と題したポジションペーパー（1,000 字程度）の提出を課題とした。さらに、2020 年度は計 10 週、2021 年度は計 12 週、2022 年度は計 14 週に渡り、リアクションペーパー（500 字程度）の提出を求めた。履修生は、自分自身や身近な人などの具体的な経験に関連させながら、講義と課題リーディングを通して考えたことや疑問に思ったことをリアクションペーパーにまとめ、共有の可否をその都度判断して提出する。そして、共有可の中から選抜された提出物は授業において匿名で読み上げられ、講師からのコメントだけでなく、他の学生の共感的な見解や異なる意見などもフィードバックされるとした。採点結果の返却や個別のコメントのやり取りを含む課題管理は、すべて Google クラスルームによるコース管理システムを活用した。

### (6) 課題

本科目の提出物には、性に関する個人的な経験や心中の描写も想定されたため、共有の可否を示した上で提出するように規定した。なお、共有不可としても成績評価等に不利益は生じないことを、Week1 シラバスの説明で明言している。2022 年度前期の 2 クラスには同一の講義動画を配信したが、リアクションペーパー共有回はクラス別に授業動画を作成し、そのクラスの履修登録者だけが視聴できるよう、アクセス制限を設けた。なお、最終週となる第 15 週目のリアクションペーパーは、共有可とした履修生の提出物をクラス別にまとめて PDF 化し、それぞれのストリームに配信した。

表2. 授業概要

科目	セクシュアリティ入門Ⅰ <sup>1</sup>	
形式	対面授業 <sup>2</sup>	オンデマンド型遠隔授業
(1) 授業 内容	<p>セクシュアリティに関する基本的用語を説明し、身体的、心理的、社会的などさまざまな側面からセクシュアリティを概観する。また、人権にまつわる歴史的な出来事を示し、多様な性のあり方について考察する。基本的には講義形式で進めるが、<u>グループ・ディスカッションやグループワークなど</u>、他の人の意見や感想を聞く機会を設け、できる限り対話のある授業とする。</p>	<p>セクシュアリティに関する基本的用語を説明し、身体的、心理的、社会的などさまざまな側面からセクシュアリティを概観する。また、人権にまつわる歴史的な出来事を示し、多様な性のあり方について考察する。基本的には講義形式で進めるが、<u>リアクションペーパーやレポートの共有を通して</u>、他の人の意見や感想を聞く機会を設け、できる限り対話のある授業とする。</p>
(2) 授業 計画	<p>【計15回】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.はじめに：オリエンテーションと基本的用語の理解</li> <li>2.セクシュアリティとはなにか：性を構成する要素</li> <li>3.セクシュアリティに関する論説：性別二元論、ヘテロノーマティヴィティなど</li> <li>4.<u>人権ドキュメンタリーの鑑賞「ハーヴェイ・ミルク」</u></li> <li>5.<u>「ハーヴェイ・ミルク」についてのグループ・ディスカッションの後、同性愛解放運動①</u></li> <li>6.同性愛解放運動②：都立府中青年の家裁判、一橋アウトィング事件、新潮45炎上など</li> <li>7.身体的・心理的・社会的な性を考える①：身体的な性差、インターセックス</li> <li>8.身体的・心理的・社会的な性を考える②：性同一性、パッシング、カミングアウト</li> <li>9.身体的・心理的・社会的な性を考える③：ジェンダー、ホモセクシュアルとホモソーシャル</li> <li>10.<u>ゲストスピーカーによる講話（予定）とグループ・ディスカッション</u></li> <li>11.同性愛を考える：病理化と脱病理化の歴史、HIV/AIDS</li> <li>12.男と女以外を考える：性別越境、セックスワークの歴史</li> <li>13.<u>セクシュアリティとライブイベント：グループワークとプレゼンテーション</u></li> <li>14.<u>授業内レポート（ブックレビュー）</u></li> <li>15.おわりに：ブックレビューの講評と総括</li> </ol>	<p>【計15回】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.はじめに：オリエンテーション、基本的用語の理解</li> <li>2.セクシュアリティとはなにか：性を構成する要素</li> <li>3.セクシュアリティに関する論説：性別二元論、ヘテロノーマティヴィティなど</li> <li>4.<u>リアクションペーパー&amp;レポートの共有とフィードバック①</u></li> <li>5.同性愛解放運動①：国外編</li> <li>6.同性愛解放運動②：国内編</li> <li>7.<u>リアクションペーパーの共有とフィードバック②</u></li> <li>8.身体的・心理的・社会的な性を考える①：DSD、インターセックス</li> <li>9.身体的・心理的・社会的な性を考える②：性同一性、性別違和</li> <li>10.身体的・心理的・社会的な性を考える③：ジェンダー、パートナーシップ証明</li> <li>11.<u>リアクションペーパーの共有とフィードバック③</u></li> <li>12.男と女を超えて考える①：トランスジェンダー</li> <li>13.男と女を超えて考える②：セックスワーク</li> <li>14.男と女を超えて考える③：ズーフィリア</li> <li>15.<u>おわりに：リアクションペーパー&amp;レポートの共有とフィードバック④、総括</u></li> </ol>

(3) 授 業 方 法	<p>初回授業（1. はじめに：オリエンテーションと基本的用語の理解）において配布する詳細なシラバスに沿って、授業を展開する。<u>ドキュメンタリー鑑賞とゲストスピーカーの講演については、授業で学んだ内容を反映したリアクションペーパーの提出とグループ・ディスカッションへの参加を求める。また、セクシュアリティとライブイベントにおいては、グループワークとプレゼンテーションを実施する。セクシュアリティに関する興味深い一冊を選び、その本について授業内レポート（ブックレビュー）を書く。</u></p>	<p>授業（オンデマンド型）は、序盤、中盤、終盤に分けて展開する。序盤では、セクシュアリティに関する概念や論説などを説明し、その後の講義を理解するための知識基盤を創る。中盤では、セクシュアリティにまつわる歴史的な出来事を紹介することで、人権問題としてのセクシュアリティの側面を理解する。終盤は、「身体的・心理的・社会的な性を考える」ならびに「男と女を超えて考える」の2つのテーマに分け、現代に通じるセクシュアリティの問題と対応について検討するための知見を備える。いずれの講義においても、リアクションペーパーの提出を求め、定期的に提出物の共有とフィードバックを実施する。</p>
(4) 準 備 学 習	<p>毎週の課題リーディングにとどまらず、<u>自分にとって興味深いセクシュアリティにまつわる本や論文などを積極的に探し、授業内レポート（ブックレビュー）に使用する一冊を決定すること。</u></p>	<p>この科目は Google サイトで HP を作成し、毎回の授業を Web ページに構成して配信する。<u>Web ページには講義動画へのリンクだけでなく、関連の Web サイトや他の動画へのリンクも参考資料として掲載する。準備学習には、毎週指定している課題リーディングだけでなく、これらの参考資料にも目を通して、自分の意見や質問を整理する時間を計画されたい。</u></p>
(5) 評 価 方 法	<p>平常点等(100点) 平常点等配点内訳：<u>リアクションペーパー20点×2=40点、授業内レポート（ブックレビュー）30点、授業への積極的参加度（グループ・ディスカッションとグループワーク、プレゼンテーションを含む）30点</u></p>	<p><b>【2021年度】</b> 平常点等(100点) 平常点等配点内訳：<u>リアクションペーパー（12回）とポジションペーパー（レポートx2回）の提出を求める。提出物の期限内の提出をもって、各授業回への出欠状況を判断する。</u></p> <p><b>【2022年度】</b> 平常点等(100点) 平常点等配点内訳：<u>リアクションペーパー70%（14回x15点=210点）とレポート30%（2回x15点）の提出を求める。提出物の期限内の提出をもって、各授業回への出欠状況を判断する。</u></p>
(6) 課 題	<p><u>リアクションペーパーとブックレビューについては匿名扱いで読み上げるか、mwu.jp に開設するクラスルームにて匿名扱いで共有し、講評する。</u></p>	<p><u>リアクションペーパーとレポートは、講義において匿名で共有し、それぞれへフィードバックを行う。</u></p>

- 1) 2020～2021年度は「セクシュアリティ入門」
- 2) コロナ禍以前の授業計画のため、未実践

表 3. 各回の授業内容

Week	動画タイトル
1.はじめに	ご挨拶／シラバスの説明／基本的用語の紹介
2.セクシュアリティとはなにか	生物学的な性／性自認・性的指向・性表現・性役割／ジェンダーブレットパーソン
3.セクシュアリティに関する論説	ワンセックスモデルとツーセックスモデル／「哺乳類 (Mammalia)」に秘められたリンネの願い／性別二元論とヘテロノーマティヴィティ／ホモフォビア・ホモソーシャル
4.リアクションペーパー&レポートの共有とフィードバック①	レポート①「女であることについて思うこと」の共有／リアクションペーパーの共有 (Week2、Week3)
5.同性愛解放運動①	ソドミー法／ヨーロッパにおけるソドミー法の拡大と揺り戻し／ドイツ帝国刑法典 175 条とドイツにおける性科学の発展／ホモファイル運動／アメリカの同性愛解放運動／ハーヴェイ・ミルク
6.同性愛解放運動②	古代 (大和朝廷～奈良・平安)：女人禁制／中世 (室町・鎌倉)：稚児／近世 (戦国時代・江戸)：男色／明治維新による欧米化／昭和から平成の事件
7.リアクションペーパーの共有とフィードバック②	リアクションペーパーの共有 (Week4、Week5、Week6)
8.身体的・心理的・社会的な性を考える①	ヘルマフロディトス／性分化疾患 (DSD) ／外性器の形成と分類・性分化疾患治療に必要なステップ／ブレンダ症例／DSD アスリート／男性の妊娠・Dr. Milton Diamond の多様性に関する考え
9.身体的・心理的・社会的な性を考える②	アイデンティティ／考えてみましょう：性的マジョリティと性的マイノリティ／同性愛アイデンティティの発達モデル／性同一性障害から性別不合へ／DSM-V における性別違和／カミングアウト／カムアウト・トランスジェンダーの私がボクサーになるまで
10.身体的・心理的・社会的な性を考える③	憲法・法律・条例の違い／法律婚 (婚姻) ／事実婚／選択的夫婦別姓制度／同性パートナーシップ証明／結婚による法律の効果と根拠法／同性婚が法律婚となればどうなるのか・ニュージーランド 2013 年モーリス・ウィリアムソン議員のスピーチ
11.リアクションペーパーの共有とフィードバック③	リアクションペーパーの共有 (Week7、Week8、Week9、Week10)
12.男と女を超えて考える①	トランスジェンダー／トランスヴェスタイト／クロスドレッサー／第三の性／日本における異性装／トランスセクシュアル／日本初の SRS
13.男と女を超えて考える②	売春とは／日本における売春の沿革：古代・中世・近代・現代
14.男と女を超えて考える③	先史時代の動物、人間、性／有史時代の動物、人間、性／Bestiality (獣姦) と Zoophilia (動物性愛) ／現代の動物、人間、性
15.リアクションペーパー&レポートの共有とフィードバック④、総括	リアクションペーパーの共有 (Week11、Week12、Week13、Week14) ／レポート②「セクシュアリティについて思うこと」の共有／おわりに

図 1. 授業全体を編成した第 6 週目用サブページ



図 2. 第 2 週目の授業ノート（一部抜粋）



### Ⅲ. 授業実践に対する評価

以下に、2022 年度前期履修生による評価指標を用いて、本科目の授業実践を概観し、その効果について検討する。本稿の執筆にあたり、倫理的配慮として特に匿名性の確約やプライバシーの保護が徹底されている 2 種類の指標を採用した。一つは YouTube アナリティクスが示す視聴維持率の指標、もう一つは授業アンケートで寄せられた意見である。いずれも無記名であり、筆者にも人物の特定ができない指標であることを書き添えておく。

#### (1) YouTube アナリティクスによる指標

インプレッション数 (imp) とは、動画のサムネイルが YouTube や Web サイトで表示された回数である。一般的に、動画のパフォーマンスを評価する場合は、視聴回数や総再生時間に加えて、インプレッションやインプレッションのクリック率などが注目度を推定する主要指標として用いられる (Google, 2002)。しかし、本科目のように、一般には非公開でかつ限定的な視聴者を一定期間だけ対象としている動画の場合は imp による注目度ではなく、対象視聴者の動画に対する反応を示す指標 (エンゲージメント数) が適切である。そこで、動画投稿日から前期最終日である 2022 年 8 月 5 日までの期間を対象に、エンゲージメント数の動向を精査することとした。

本稿では具体的なエンゲージメント数として、平均視聴時間 (Average View Duration: AVD)、平均再生率 (Average Percentage Viewed: APV)、トップモーメント (Key moment)、山 (Spike) の 4 指標に着目した。AVD は選択した動画における一回当たりの推定平均再生時間、APV は視聴者が動画で視聴した部分の平均割合を指す。また、トップモーメントとは、動画の視聴中に視聴を停止した視聴者がほぼいなかった部分、山は多くの視聴者が動画の中で何度も視聴した部分を指す。一般的

には、視聴維持率が 40%以上であれば視聴者を長く引き付ける動画であるとされるため、AVD も APV も 4 割以上に達していることが望ましく、トップモーメントと山は多く長く維持されるほど、学生の高い関心を示すと捉えられる。

#### (2) 無記名の授業アンケートに寄せられた履修生の声

本学では、教育サービスの充実を目的とした教育支援システム (MUSES) を利用して、学期期間中に無記名の授業アンケートが実施されている。2020 年度前期は実施が見送られたが、後期より再開し、2022 年度前期は 7 月前半に行われた。筆者が担当する 2 クラスは、計 198 名中 46 名 (100 名中 25 名ならびに 98 名中 21 名) が回答した (合計回答率 23.2%)。全回答者は武庫川女子大学並びに女子短期大学部に所属する学生であり、全学年ならびに全学部から履修登録していた。自由記述での回答を求めた「問 13.この授業の良い点を記入してください」「問 14.資料や授業の進め方に改善点があれば記入してください」とする設問では、履修生が本科目の授業内容に対する意見や感想を自分のことばで述べるのが可能である。本稿ではこの自由記述の回答をデータとして、ユーザーローカル AI テキストマイニング (2022) で共起ネットワークを作成し、抽出された頻出語や特徴語の解釈を試みた。

## IV. 結果と考察

#### (1) 視聴維持率の指標から

動画の長さ、平均視聴時間 (AVD)、平均再生率 (APV)、視聴回数、総再生時間の相関関係をピアソン積率相関係数で調べたところ、総再生時間が 1%有意水準で 3 つの指標と強い相関にあることが示された (表 4)。そこで、すべての講義動画を総再生時間の降順で並べ替え、上位の内容に注目した。

表 5 に示した総再生時間上位 20 の講義動画には、Week1 に配信した動画がすべて含まれている。特に、第 2 位の「Week1 シラバスの説明」は、本科目の課題や評価方法、毎週の予定などを詳しく説明した動画であり、講義というよりは授業のオリエンテーションとして位置づけた。この動画の平均視聴時間 (AVD) と平均再生率 (APV) は、第 1 位の「Week6 古代 (大和朝廷～奈良・平安) : 女人禁制」に満たないが、視聴回数(n=248)は上回る。そこでアクセス履歴を見たところ、4 月に集中して視聴が繰り返されており、履修生が授業の進み方や課題を理解しようとしていたことが読み取れた。第 3 位「Week2 生物学的な性」は 17 分弱の講義動画だが、第 4 位「Week8 ブレングラ症例」の視聴回数と総再生時間を上回るほど反復視聴されていた。また、Week5 (第 8 位と 14 位) と Week6 (第 5 位と 11 位) は、同性愛解放運動と題して国内外のセクシュアリティにまつわる主な歴史を辿る講義である。特に Week6 では、わが国の性を捉える視点の系譜を大局的に見る構成としている。さらに、Week8 身体的な性 (第 4 位と 10 位) と Week9 心理的な性 (第 17 位と 20 位) も総再生時間が長いテーマである。同性パートナーシップ証明制度と同性婚を取り巻く議論を取り上げた「Week10 社会的な性」が第 30 位以下であったことを考え合わせると、今まさに青年期の履修生が高い関心を示すのは、自らの性に該当する青年期の身体・精神的な発達成長に関する講義であり、動画視聴は自己理解の時間となっていたことが考えられる。

表 6 には講義動画全体がトップモーメントであった 13 本について、山の回数と示された箇所をピックアップをまとめた。これらの動画には 30 分を超える長尺も含まれているが、いずれも終始 70%前後

の視聴維持率が確認された。また、すべての動画において複数回みられていた山は、写真のみや文字情報が多いスライドの箇所に該当していた。情報量が多い場合は前もって授業ノートに虫食い加工を施し、履修生は穴埋めをしながら視聴できるよう準備している。なぜその箇所が反復視聴されたのかは推測の域を出ないが、こうした仕掛けが奏功し、視聴維持につながったことも考えられる。

表 4. 講義動画の長さ、AVD、APV、視聴回数、総再生時間のピアソン積率相関係数

変数	1	2	3	4	5
1. 長さ	-				
2. AVD	-.90 <sup>**</sup>	-			
3. APV	-.76 <sup>**</sup>	-.47 <sup>*</sup>	-		
4. 視聴回数	.28	.41 <sup>*</sup>	-.29	-	
5. 総再生時間	.80 <sup>**</sup>	.92 <sup>**</sup>	-.46 <sup>*</sup>	.71 <sup>**</sup>	-

<sup>\*</sup> $p < .05$ , <sup>\*\*</sup> $p < .01$

表 5. 総再生時間上位 20 の講義動画

#	Week	動画タイトル	長さ mm:ss	AVD mm:ss	APV %	視聴 回数	総再生 時間 hours
1	Week6	古代（大和朝廷～奈良・平安）：女人禁制	23:27	10:13	43.6	210	35.8
2	Week1	<u>シラバスの説明</u>	<u>24:01</u>	<u>08:22</u>	<u>34.3</u>	<u>248</u>	<u>34.6</u>
3	Week2	生物学的な性	16:54	08:22	49.3	221	30.8
4	Week8	ブレンダ症例	31:17	12:52	41.2	141	30.3
5	Week6	昭和から平成の事件	24:49	10:15	41.4	176	30.1
6	Week3	ホモフォビアとホモソーシャル	18:05	08:38	47.8	201	29.0
7	Week1	<u>基本的用語の理解</u>	<u>22:49</u>	<u>11:04</u>	<u>48.6</u>	<u>155</u>	<u>28.6</u>
8	Week5	<u>アメリカの同性愛解放運動</u>	<u>27:54</u>	<u>10:45</u>	<u>38.6</u>	<u>142</u>	<u>25.5</u>
9	Week3	<u>ワンセックスモデルとツーセックスモデル</u>	<u>12:50</u>	<u>06:12</u>	<u>48.3</u>	<u>243</u>	<u>25.1</u>
10	Week8	性分化疾患	20:08	08:25	41.9	176	24.7
11	Week6	中世（室町・鎌倉）：稚児	17:57	08:09	45.5	181	24.6
12	Week13	日本における売春の沿革～中世～	29:44	12:20	41.5	107	22.0
13	Week2	<u>性自認・性的指向</u>	<u>11:36</u>	<u>05:30</u>	<u>47.2</u>	<u>224</u>	<u>20.6</u>
14	Week5	<u>ソドミー法</u>	<u>12:08</u>	<u>06:08</u>	<u>50.6</u>	<u>200</u>	<u>20.5</u>
15	Week14	おわりに（ズーになる）	28:50	11:17	39.2	109	20.5
16	Week6	近世（戦国時代・江戸）：男色	17:55	08:39	48.3	141	20.3
17	Week9	<u>同性愛アイデンティティの発達モデル</u>	<u>19:06</u>	<u>07:03</u>	<u>37.0</u>	<u>167</u>	<u>19.7</u>
18	Week1	<u>ご挨拶</u>	<u>13:37</u>	<u>05:08</u>	<u>38.2</u>	<u>226</u>	<u>19.6</u>
19	Week12	第三の性	22:52	09:17	40.7	122	18.9
20	Week9	<u>性同一性障害から性別不合へ</u>	<u>18:26</u>	<u>07:19</u>	<u>39.8</u>	<u>154</u>	<u>18.8</u>

下線は表 6 に含まれない講義動画（動画全体がトップモーメントではない）

表 6. 動画全体がトップモーメントとされた講義動画の山 (Spike)

Week	動画タイトル	山	山が示された箇所
Week6	古代 (大和朝廷～奈良・平安) : 女人禁制	3	女人禁制、神道における穢れ、仏教における不邪淫戒
Week2	生物学的な性	3	外性器で見分ける性、遺伝子の性、生物学的な性のレベル
Week8	ブレンダ症例	2	David Reimer (1965 - 2004)、Milton Diamond
Week6	昭和から平成の事件	2	1990 府中青年の家事件、2015 一橋アウトティング事件
Week3	ホモフォビアとホモソーシャル	2	ホモフォビア、ホモソーシャル
Week8	性分化疾患	5	生物学的な性の復習、性分化疾患の種類、主な性分化疾患の説明
Week6	中世 (室町・鎌倉) : 稚児	3	稚児の説明
Week13	日本における売春の沿革～中世～	5	遊郭の遊女、歩き巫女、夜鷹、比丘尼、陰間
Week14	おわりに	2	ズーになる
Week6	近世 (戦国時代・江戸) : 男色	4	男色の説明
Week12	第三の性	3	ミクロネシア・ポリネシアの第三の性
Week14	有史時代の動物、人間、性	2	旧約聖書における動物との性的な交わりに関する言及、古事記中巻仲哀天皇
Week13	日本における売春の沿革～近代～	2	芸娼妓解放令と公娼制度、サンダカン八番娼館

## (2) 自由記述の分析から

授業アンケートの自由記述回答は無記名で行われるため、個々の回答者の属性となる所属や学年は不明である。履修生 46 名が回答した自由記述には、個人が特定されるような内容も見当たらなかったことから、匿名性の確約とプライバシーの保護が徹底された回答と考えた。分析は、単語の出現頻度を調べるテキストマイニングで行った (総抽出語 441 語)。表 7 は名詞、動詞、形容詞の別にスコアで降順に並べ替え、上位 5 位までを列挙したものである。ユーザーローカル AI テキストマイニング (2022) では、「一般的な文書でよく出る単語」は重みづけを軽くし、一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけよく出現する単語は重視するという仕組みを取り入れ、単語の重要度を示す「スコア」を算出している。「リアクションペーパー」、「学べる」、「わかりやすい」といった単語に高いスコアが付されており、リアクションペーパーを通した学びがこの授業を特徴づけていることが示されている。

図 3 は、単語の出現パターンが類似しているものを線で結んだ共起キーワードである。出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描かれており、回答者がどのようなことを書いたのかが大まかに把握できる。例えば、「学び・見る・写真・わかりやすい・深める」「トピック・見やすい・分かれる」「資料・豊か・類語辞典」といったネットワークは、「写真を見るとわかりやすく、学びを深めることができた」「トピックが分かれていて見やすい」「資料が豊富」などの、講義や授業内容についての前向きなコメントであることが推察される。「良い・PDF・匿名・書きやすい」というネットワークも、「匿名で書きやすい」といった提出課題の作成に関する感想と捉えられる。また、「課題・戸惑う・提出・分かりづらい」は「課題に戸惑い、提出方法が分かりづらかった」といった意見と考えられる。「ひとりひとり・総評・嬉しい・難しい等」「先生・読み上げる・もどかしい等」というネットワークは、リアクションペーパー共有回に関する感想と思われるが、わからないことがあってもその場で質問が出来ず、交流が図りにくいオンデマンド型のデメリットにも言及されている

のかもしれない。つまり、リアクションペーパーの共有に関しては、概ね好評だが改善の余地があり、授業方法の再検討が必要と捉えてよいだろう。

表 7. 2022 年度前期授業アンケート自由記述の単語出現頻度抜粋

品詞	単語	スコア	出現頻度
名詞	リアクションペーパー	97.33	9
	セクシュアリティ	22.69	4
	受講	12.73	6
	意見	4.85	13
	共有	4.74	8
動詞	学べる	1.45	2
	知れる	0.64	4
	読み上げる	0.60	1
	学ぶ	0.47	3
	深める	0.34	1
形容詞	わかりやすい	1.65	5
	書きやすい	1.00	1
	分かりづらい	0.60	1
	もどかしい	0.26	1
	興味深い	0.22	1

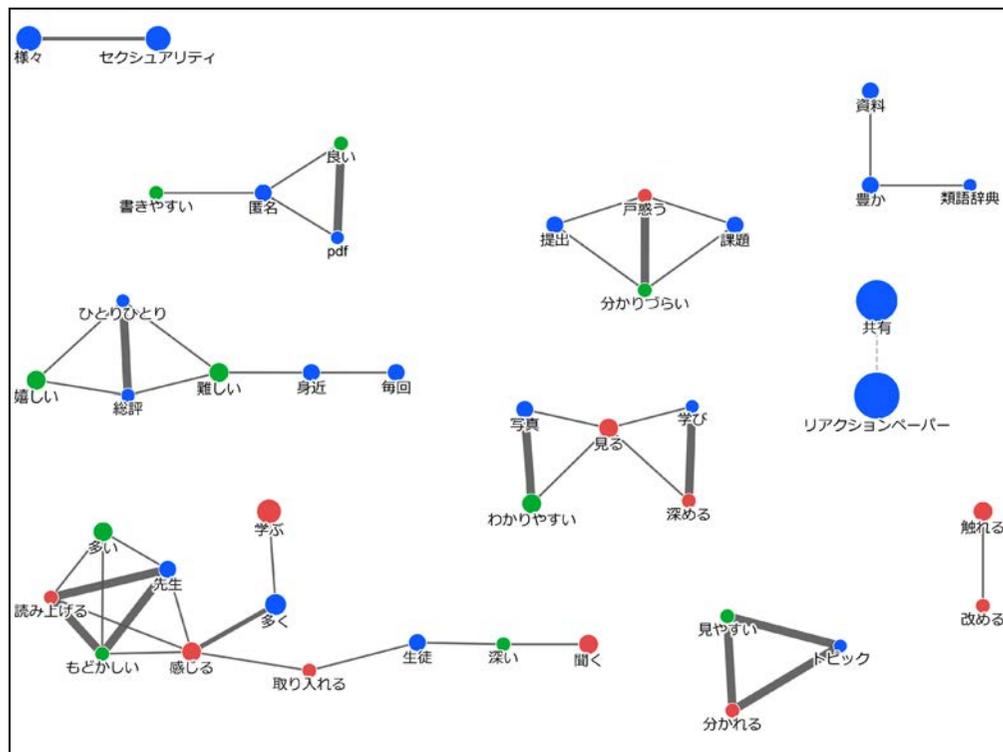


図 3. 2022 年度前期授業アンケート自由記述の共起キーワード

## V. まとめと今後の課題

本稿では、2020 年度に開講した「セクシュアリティ入門 I」について、新規開講に至るまでの経緯とオンデマンド型遠隔授業への変更点、ならびに 2022 年度前期に受講した学生による無記名データを用いて現在の授業実践を概観した。YouTube アナリティクスの指標からは受講の様子と関心の高かったテーマ、また授業アンケートの自由記述からは受講の主な感想と意見が抽出された。

オンライン授業は、個々の学生が理解度に応じて自分のペースで学習できることや、苦手なところを繰り返し視聴できることが主な利点という教員の見解が報告されている（山田、2020）。本科目の履修生も気になる講義動画は繰り返し視聴しており、リアクションペーパーの共有があることで学びを深めたとする意見も浮き彫りになった。つまり、履修生はオンデマンド型の利点を生かしながら、能動的に本科目の授業参加を果たしていたといえる。

自主的に学習を継続するには学習者の意欲が鍵となるが、本科目においては何が影響したのだろうか。一つには、セクシュアリティという禁忌性の高いテーマを扱う授業であること自体が、履修生の学習意欲を掻き立てたと考える。ある学生は「タブーとまではいかないが、何となく話すのがはばかれるようなテーマなため、友人には話しにくいことでも授業のお陰で他の履修生の意見を聴く機会があった」と授業アンケートに記していた。ジェンダーやセクシュアリティといった性を題材として取り上げる大学授業は選択科目である場合が多く、必要な知識と考えられる教職希望者であっても未履修で卒業していく学生は存在する（橋弥・平井・梶村、2016）。本学においても共通教育のジェンダー科目群は人気が高い抽選科目であり、履修は運である側面も否定できない。需要と供給のバランスに偏りが生じていることで、かなり得難い学修機会となっていることが、自主的な授業参加に影響している要因の一つと考えてもよいだろう。

もう一つの要因として、履修生が青年期のアイデンティティ形成過程にいる点を考えたい。性は、自我の確立において重要な位置を占める。ライフサイクル理論によると、自我同一性の確立は人生前半の発達課題であり（Erikson & Erikson, 1998）、大学生活はアイデンティティを確立するための猶予期間（モラトリアム）としても機能する。「自分は何者なのか」という問いに対する手掛かりを探す学生は、少なからず存在している。オンデマンド型の学習環境は、「授業を通して自分について深く考え、また新しい一面を知ることができた」という自由記述に表されるように、周囲の視線を気にすることなく自己と対峙できる場を提供しているといえる。

三つ目の要因として、オンラインならではの集団凝集性を挙げたい。周囲の顔が見えないことが言語化への抵抗を小さくしたのか、多くの履修生は毎週のリアクションペーパーには女子として育てられてきたことによる性に関する自らの思いや考え、時には経験を、自分のことばで綴ろうとしていた。対面では伝えにくい考え方や捉え方でも、率直かつのびやかに表現しており、講師を介してではあるが、履修生の間で本音の対話が実現していた印象がある。「顔の見えないオンデマンドだからこそ、正直な意見を伝えられた」という履修生らは、お互いの生育環境と現在の考えを理解し合える、同窓の仲間としての絆を深めていったのではないかと。当初は共有不可としていた履修生が、次第に胸襟を開いていくやり取りに影響され、共有可に切り替えて積極的な授業参加を果たすなど、オンデマンドであっても他にはない学びの共同体を、履修生が自ら作り上げていたといってもよいだろう。

本稿で行った精査の限界として、今回採用したデータが反映できない学生の存在を記しておく。YouTube アナリティクスから採用できる指標は、いずれも講義動画を視聴した履修生のものであり、視聴しなかった学生、特に早期の段階で単位を落とすと決めた、いわゆる落単学生については言及で

きない。単位を落とすと決めた時期や理由はさまざまであると考えられるが、今後は授業改善に向けた基本情報として、そうした学生らの声を収集する手法を検討する必要がある。

また、今後授業改善の検討で特に重要と考える点として、女子や女性を対象とした性に関する授業としての授業計画の再考を挙げておきたい。本科目は、2022年度からの定員増加により、担当講師としてリアクションペーパー共有回に取り上げたい提出物が増えたことで、授業時間の不足傾向が顕著になった。さらに、2022年度に開講した「セクシュアリティ入門Ⅱ」は、「セクシュアリティ入門Ⅰ」でカバーできなかった「障害者と性」「高齢者と性」「性暴力」をテーマとして取り上げているが、履修生からは性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）や性暴力に対して理性的に対応する知識と、性的同意を取るためのコミュニケーションスキルの獲得に高い関心が寄せられた。今後は、両科目の授業計画を再配分し、構成し直すことを検討したい。

履修生のリアクションペーパーとレポートにおいて、共有の可否を示してから提出するという手続きは筆者が考案したが、それは対面授業で計画していたグループワークやグループ・ディスカッションによる一体感に近づけないかとの試みであった。蓋を開けてみると、共有の可否を決定する手続きが、主体的に授業に取り組む姿勢を形成した可能性はあるように思う。そして、同じ大学に通う同年代の女子であっても、人生経験はもとより、性にまつわる意見や捉え方にかなりの幅があることを発見的に理解し、性の多様性について波及的な視野の広がりを獲得していた。今後もオンデマンド型の良さを生かしつつ、本学学生だからこそ可能な性に関する対話と交流を通して、「一生を描ききる女性力」の醸成に資する教養を提供したいと考えている。

## 謝辞

「セクシュアリティ入門Ⅰ」の開講と本稿を執筆するきっかけを与えてくれた2020年3月卒業の武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科社会福祉コース中尾ゼミのみなさんに、心から感謝申し上げます。なお、本科目は、2022（令和4）年度前期 授業改善奨励制度において、より良い授業方法の工夫と実践が行われている教育活動として表彰されました。学生と教員だけでなく、学生同士の双方向コミュニケーションで成立する本授業に対する表彰は、これまで本科目を履修された本学学生のみなさんによる積極的な授業参加の賜物と考えています。ここに感謝の意を込めて、本授業に対するみなさんの真摯な取組みの姿勢に深く御礼を申し上げます。

## 引用文献

- Erikson, E.H., & Erikson, J. M. (1998). The life cycle completed (Extended Version): A Review (English Edition). New York: W. W. Norton & Company.
- Google (2022). インプレッション数とクリック率を確認する - YouTube ヘルプ  
<<https://support.google.com/youtube/answer/9314486?hl=ja>> (2022年8月28日)
- 橋弥あかね・平井美幸・梶村郁子 (2016). セクシュアリティ講義における養護教諭養成課程学生の感想文の分析 大阪教育大学紀要第IV部門, 65(1), 115-121.
- Loom (2022). Async Video Messaging for Work. <<https://www.loom.com/>> (2022年8月27日)
- 虹色ダイバーシティ (2021). LGBTとSDGs. <<https://nijirodiversity.jp/2801/>> (2022年8月11日)
- 新潮社 (2018). 「新潮 45」休刊のお知らせ <<https://www.shinchosha.co.jp/news/20180925.html>>

(2022年8月12日)

ユーザーローカル AI テキストマイニング (2022). <<https://textmining.userlocal.jp/>> (2022年8月15日)

山田剛史 (2021). 教員から見たオンライン授業－京都大学での教員調査から－ 国立情報学研究所大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム「教育機関 DX シンポ」事務局 <[https://www.nii.ac.jp/event/upload/20200925-08\\_Yamada.pdf](https://www.nii.ac.jp/event/upload/20200925-08_Yamada.pdf)> (2022年8月26日)

# Evaluation of an On-Demand General Education Course “Introduction to Sexuality” : Based on YouTube Analytics and Student Course Evaluations

Kayoko C. Nakao-Hayashizaka

## Abstract

The general education course "Introduction to Sexuality," which started as an on-demand distance learning course during COVID-19, is now in its third year of operation. The purpose of this report is to provide the background and development process of the course, and to evaluate the current class practices using YouTube Analytics indicators for future improvement. The students' thoughts and comments were taken from the online course evaluation. Taking advantage of the on-demand format, students repeatedly watched the lecture videos of their high interest, expressing their thoughts and opinions freely in the minute paper, deepened understanding by the diversity of opinions, and actively participated in the class. Future issues to be addressed include the renewal of class content and structure, and countermeasures for students who are not participating in the class.

Key Words: sexuality, gender, on-demand, online, distance learning